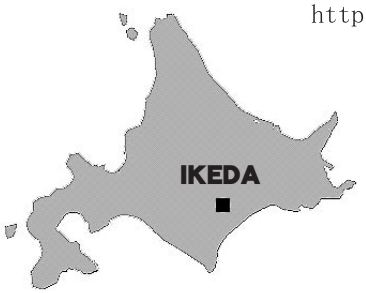
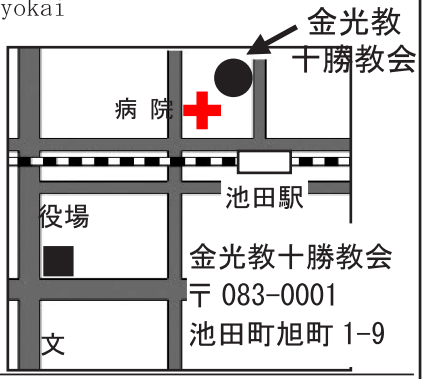
No.XX　2013, Nov.　　11 月生神金光大神大祭号

http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/kyokai



十勝教会だより59

☎　015-572-2322
fax　015-572-4213



巻頭言　困った時の神頼み

金光教十勝教会

教祖様が明治16年10月10日、70歳（満69歳）でお亡くなりになられてから今年で百三十年になります。

○

教祖様はご晩年、「肉体があれば、世上の氏子が難儀するのを見るのが苦しい。体がなくなれば、願う所に行って氏子を助けてやる」と仰っておられました。これは、死によって、目に見える「取次者」、つまり人としての働きはできなくなるが、目に見えない「取次の神」としての働きは、体という制約がなくなったことで、場所や時間にとらわれることなく、いつでもどこでも願う氏子を助けることができるようになるということです。

教祖様は「願う所に行って氏子を助けてやる」と仰っておられます。あるいは「来てくれと言う所へ、すぐに行ってやる」とも仰っています。

一方、氏子である私たちはどうでしょうか。何か困ったこと、難儀なことが起きた時に「まず金光様に願う」という心になるでしょうか。

○

「困った時の神頼み」ということがあります。金光教の信心は「困っ

教祖奥城
金光家先祖祭（9 月 10 日）より

た時だけ神様に願うのではなく、日に日に神様に心向けることが大事」というものですから、どちらかというと「困った時の神頼み」というのは軽んじられることがあります。でも前述のように教祖様は「氏子が難儀するのを見るのが苦しいので、願う所に行って氏子を助けてやる」と仰っておられます。やはり困ったことがあったら「金光様」とお願いするのは大事なことなのでしょう。

○

ところで、「困った時の神頼み」にしても、ふだん教会のお結界ですするお願いにしても、どれほど私たちは教祖様、そして天地金乃神様のことを信頼してお願いをしているでしょうか？

「どうせ神様にお願いしたっておかげ（御利益）なんかない」と思いながら神様に願う人はおそらくいないと思いますが、「教会へ参る前にあれこれやってみたが上手くいかず、最後に神様にお願いしに来た」、「あまり期待していないがすこしでもおかげがあればラッキー」という人は多いのではないでしょうか。

例えば病気ですが、先ず病院へ行き治療を受ける、それから神様にもお願いをするというのが一般的なことかと思います。あるいは、病院で治療が終わったあと「実はこういうことがありまして」と教会にお礼のお参りをすることも多いかも知れません。

やはり、体調が悪い時、病気になった時に私たちが最初に思い浮かべるのは「病院」や「お薬」です、それは病院へ行けば、あるいは薬を飲めば「とりあえず何とかなる」という思いがあるからです。つまり医療機関への信頼です。

さて、私たち金光教の信心をする者は、私たちの「いのち」は神様そのもの（神様の分霊（わけみたま））であり、そのいのちを支える「天地の働き」も神様であるということを教えられています。病気はいのちの働きに関わることです。ならば、いのちに関わることは神様にお願いするのが一番の早道のはず。それから、医療のお世話になるのが金光教の信心をする者の本来の手順なのでしょう。しかし実際には神様よりも医療への信頼が大きくなっているようです。

○

医療がどんなに進んでも新しいいのちを生み出すことはできません。いのちは人間では触れ

ることのできない、目に見えない領分です。しかし、誰もがいのちがあることは分かっています。それが分かっているのに、いのちそのものである神様のことは忘れがちです。いのちの大元は神様ですから何よりも先ず神様にいのちの働きの回復を願うことが理に適っているのではないでしょうか。

○

「困った時の神頼み」は決して悪いことではありません。しかし神様に願うことを後回しにしてしまっては元も子もないのです。せっかく教祖様は「願う所に行って氏子を助けてやる」と仰ってくださっているのですから、何事もまず教祖様のお取次を願いし、神様にお願いさせていただいてからさせていただくようにしましょう。…でも、やっぱり「いつも大事なく、普段どおり暮らさせてもらえる」のが何よりですから、いつもの変わらない暮らしにお礼をしながら過ごさせてもらいましょうね。

教会日誌

平成25年8月1日から10月31日まで

8月2日　KITAフェスタ130、豊浦町、4名参加。
4日まで。

写真 -KITA フェスタ 130-
今年のキャンプ会場は「海」。海水浴や釣り、工作、ゲームなどを楽しみました。
夕食は「羊の丸焼き」（左）、次の日の朝食は「乾パンとクズ野菜のスープ」（右）
どちらも食育の意味があります。

8月11日　士幌町、K家、二柱式年霊祭。
8月12日　池田町、I家葬儀式、会葬参拝。
8月16日　教会創立記念祭・布教功労者報徳祭。
8月18日　士幌町、M家、式年祭。
8月20日　幕別町、K家、例年霊祭・式年祭。
9月1日　音更町、M家、式年祭、納骨祭、奥城建碑式。
9月10日　金光家先祖祭、みよ子先生参拝。
9月23日　秋季霊祭・二代教会長三十五年祭。
9月27日　帯広市、I家、葬儀式。28日まで。
9月28日　帯広市、M家、感謝祭。
9月29日　道東地区教会連合会役員会、北見教会、衛先生出席。
10月4日　帯広市、I家、旬日祭。

写真 - 教会創立記念祭・布教功労者報徳祭

10月5日　教祖百三十年本部生神金光大神大祭団体参拝。8日まで
10月6日　教祖百三十年本部生神金光大神大祭参拝。
10月10日　二代教会長墓前祭。
10月13日　網走教会大祭、交流参拝。
10月14日　帯広市、I家、旬日祭。

10月20日　北海深川教会布教百年記念大祭、3名参拝。

10月24日　帯広市、I家、旬日祭。

10月27日　釧路教会大祭、みよ子先生教話奉仕、交流参拝。

写真 - 秋季霊祭・二代教会長35年祭

写真 - 教祖百三十年本部生神金光大神大祭・団体参拝

みよ子先生を含め８名の方が 10 月６日の御大祭に代表で参拝してくださいました。本部参拝の後、教祖直信（じきしん）教会である芸備（げいび）教会へ参拝し（左下）、小豆島、高松を観光して帰着しました

生神金光大神大祭祭典次第

金光教十勝教会

先　祭員着席
次　拝　礼
次　神前拝詞奉唱
次　取次唱詞奉唱
次　祭主祭詞奏上
次　祭主玉串奉奠
次　天地書附奉体
次　教会長玉串奉奠
次　参拝者代表玉串奉奠
次　金光大神賛仰詞奉唱
次　親神のよざしのままに斉唱
次　拝　礼
次　祭員退下
次　吉備舞奉納「もみじ葉」
○　御神伝奉読・講師紹介
○　教　話　金光教亀田教会副教会長
　　高村志郎　先生

神人（かみひと）あいよかけよの生活運動

願い
御取次（おんとりつぎ）を願い頂き
神のおかげにめざめ
お礼と喜びの生活を進め
神心（かみごころ）となって人を　祈り
助け　導き
神人（かみひと）の道をあらわそう

KONKOKYO
金光教

♪親神のよざしのままに♪

一、親神（おやがみ）の　よざしのままに
わが生神（いきがみ）　金光大神（こんこうだいじん）
取次（とりつぎ）の　道立（みちた）ちしより
代々（よよ）を経（へ）て　今につづけり
二、神（かみ）からも　氏子らからも
両方（りょうほう）の　恩人（おんじん）なりと
親神（おやがみ）の　のらし給（たま）える
生神（いきがみ）を　讃えまつらん
三、神（かみ）のひれ　木綿崎山（ゆうざきやま）に
照（て）り映（は）えて　日（ひ）の光（ひかり）なす
取次（とりつぎ）の　道の霊光（みたま）を
とこしえに　仰ぎまつらん

食　前　訓
食物（しょくもつ）はみな人（ひと）の命（いのち）のために
天地乃神（てんちのかみ）のつくり
与（あた）え給（たま）うものぞ
何（なに）を食（く）うにも飲（の）むにも
ありがたく頂（いただ）く心（こころ）を忘（わす）れなよ

食　後　訓
体（たい）の丈夫（じょうぶ）を願（ねが）え
体（たい）をつくれ
何事（なにごと）も体（たい）が元（もと）なり